



令和8年度(2026年度) ▶▶▶ 令和12年度(2030年度)

概要版

しもやまスマイルプラン

《後期プラン》

しもやまスマイルプランって何？

この「しもやまスマイルプラン」は、私たちが住む下山を子どもたちの世代に引き継ぐために、将来の下山について考え、描いた未来の姿を実現するための行動計画です。



下山の5年後の将来像



子どもの声が聞こえ、
笑顔で暮らせるまち しもやま



みんなでめざす下山のまちづくりの方向性

下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」の減少を抑える取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による地域活動を次世代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもから高齢者まで、誰もが安心して生活できる環境をつくります。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境をつくります。

分野別プラン

「分野別プラン」では、定住・移住、子育て・教育、健康・福祉など以下の11の分野について、下山全体で取り組むべき施策と具体的な事業を定めています。

主に下山地域まちづくり推進協議会の構成団体（里菜暮住しもやま会、下山商工会、各自治区など）や豊田市下山支所などが中心となって、下山全域の課題解決に貢献する柱となる施策を推進します。



後期プランでは、以下の4つの項目について、重点的に取り組んでいきます。

| 項目 | 後期プランで取り組む方向性 |
|-------|---|
| 定住・移住 | 「住みよさ」と「定住意識」の向上 生活利便性の向上と定住・移住施策の充実により、特に若年層・子育て世代の住みよさの向上を図ります。 |
| 観光 | 次世代が地域に誇りをもてる観光まちづくり 体験プログラムの開発や環境整備による地域資源の磨き上げや、戦略的な情報発信を関係者が主体的に取り組むことで観光まちづくりを推進します。 |
| 農地保全 | 省力的な管理手法の導入と新たな担い手の確保 耕作放棄地の解消に向け、地域外人材も含めた担い手の育成や、粗放的な農地管理（手のかからない管理）を推進します。 |
| 基盤整備 | 生活道路の計画的整備と安全対策の推進 住民生活に直結する道路の整備・補修を着実に進めるとともに、交通量変化に対応した安全対策を行います。 |

しもやまスマイルプラン《後期プラン》（概要版） 令和8年3月

発行：下山地域まちづくり推進協議会（事務局 豊田市役所地域活躍部下山支所）
TEL 0565-90-2111 メール shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp

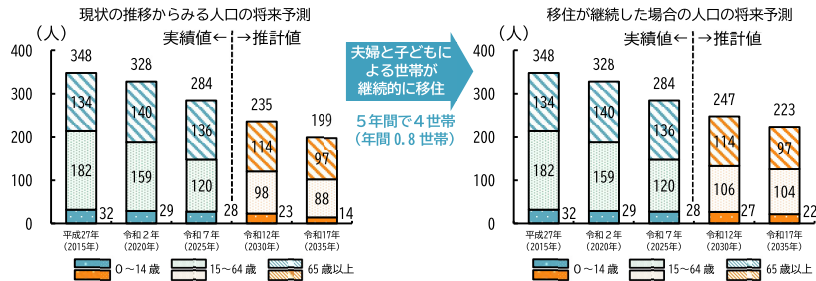


※本編は豊田市ホームページからご覧ください。

羽布自治区の人口データ

- 羽布自治区には、108 世帯、284 人の方が住んでいます(豊田市住民基本台帳、令和 7 年 10 月 1 日現在)。
- 令和 12 年には 235 人と、今後 5 年間でさらなる減少が予想されていますが、継続的に若い世代が移住すると、人口構成の回復が期待できます。

羽布自治区の人口の推移と推計



羽布自治区の5年後の将来像

- 高齢者は増えていますが、ご近所同士の世代を超えた交流や助け合いが盛んです。
- 高齢者も含めて、みんながパソコンやスマートフォンを使えるようになり、暮らしが便利で楽しくなっています。
- ハザードマップの更新や一人暮らし高齢者への支援を通じ、住民の防災意識が強化されています。
- 住宅や農地の将来を地域全体で考えるようになり、空き家や遊休農地が様々な方法で活用されています。
- 地域の見守り活動や子育て世代へのヒアリングを通じて、子どもや子育て世帯にとって暮らしやすい地域になっています。
- 古くからの住民、移住者、その他の羽布と関わりのある人も含めて、みんなで親睦を深めたり交流したりする機会が生まれており、羽布の関係人口は増えています。
- 景観整備などにより三河湖の魅力が高まり観光客も増え、住民との関わりによって地域が活性化しています。
- 地域の仕事などを見直していくことにより、若い世代の担い手が増え、祭りや行事は存続・継承されています。地域外に住む人も地域の仕事や行事の運営などに協力しています。
- コミュニティバスなど公共交通機関が整備され、みんなが気軽に外出できるようになっています。

羽布自治区の今後5年間の取組

● 取組 1：定住・移住の促進(空き家活用、移住者受け入れの仕組みづくり)

地域が守りたい景観や祭り(伝統)の継承など、みんなが楽しく安心して暮らせる地域づくりをめざし、引き続き、空き家の活用や移住者の受け入れ体制を整えます。

各家庭で住宅の将来を考えるきっかけづくりを進めるとともに、空き家所有者への働きかけや利活用に向けた啓発を行い、地域全体で移住者が地域に溶け込みやすい環境づくりを進めます。

● 取組 2：住民同士の支え合い体制整備

地域住民が安心して暮らし続けられるように、災害時における連絡体制を整えるとともに、防災マップを見直すなど住民相互の支え合いがスムーズにできる環境を整備します。

地域の高齢者世帯や一人暮らし世帯に対して、無理なく見守りを行うような活動や互いに助け合いを行うような活動を進める仕組みづくりを行います。

高齢者の方でも気軽にパソコンやスマートフォンを活用し、情報の共有や買い物より便利に行えるようにするための教室を開催します。

● 取組 3：農山村の魅力や景観の維持・向上

住みよい生活環境の維持や地域の活性化のために、農地・山林や道路・水路を地域共有の財産として地域で草刈や清掃等を行い、共同で管理するなど、地域の景観を維持・管理する取組を行います。また、田植えや稲刈り体験の取組の拡大によって、さらなる遊休農地の活用を行います。

● 取組 4：自治区運営の維持・改善(次世代に引き継ぐためのお役や行事の再編)

このまま高齢化が進み若者が減少すると、お役を担える人が固定化し、地域の活動が維持できなくなることが懸念されます。お役や地域行事を次世代に引き継ぐために、お役の役割や活動内容を見直し、自治区の運営体制のあり方を検討します。また、自治区内での情報共有を効率化するために、チャットグループを作成するなどITの活用を検討します。

重点
取組

| 令和 8 年度 (2026 年度) | 令和 9 年度 (2027 年度) | 令和 10 年度 (2028 年度) | 令和 11 年度 (2029 年度) | 令和 12 年度 (2030 年度) |
|--|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1：定住・移住の促進(空き家活用、移住者受け入れの仕組みづくり) | | | | |
| 下山支所や事業所と連携した空き家の発掘・「想家 PROJECT」を通じた関係人口とのつながり強化 | | | | |
| 2：住民同士の支え合い体制整備 | | | | |
| 組単位での見守り活動・住民の困りごとを住民で解決 | | | | |
| 災害時における組や班ごとの連絡体制の確立 | | | | |
| 防災マップの再整備 | 各戸配布 | | | |
| パソコン・スマートフォン教室の開催 | | | | |
| 3：農山村の魅力や景観の維持・向上 | | | | |
| 道水路等(共用部)の維持管理 | | | | |
| 「オラたちの田んぼ」の拡大・遊休農地の活用 | | | | |
| 4：自治区運営の維持・改善(次世代に引き継ぐためのお役や行事の再編) | | | | |
| 自治区の活動や役員の役割の見直し | 役員構成のあり方検討 | | | |
| 行事の存続・継承の仕組みづくり | | | | |
| 各組行事の継続 | | | | |
| 情報共有効率化のためのIT導入 | | | | 自治区・組での試行実施 |